

大雨や台風の気象情報に注意して

早めに防災対策・避難行動を行いましょう

夏から秋にかけては、台風や前線の影響で、大雨、洪水、暴風による自然災害が発生しやすい季節です。皆さんが早めの避難などの防災行動をとることができるよう、気象庁は様々な「防災気象情報」を

発表しています。時間を追って段階的に発表される「注意報」や「警報」などの防災気象情報を有効に活用し、早め早めの防災行動をとるようにしましょう。

大雨や台風による災害は毎年発生

季節の変わり目に梅雨前線や秋雨前線が停滞し、しばしば大雨を降らせれます。また、7月から10月にかけては日本に接近・上陸する台風が多くなり、大雨によって、崖崩れや土石流、川の氾濫などが発生しやすく、人々の生命が脅かされるような自然災害が、毎年のように発生しています。近年は、短時間に狭い範囲で非常に激しく降る雨も頻発しています。

防災気象情報を活用し、大雨や台風への備えを

災害から命を守るためには、行政が行う対策などの「公助」だけでなく、一人一人の「自助」、すなわち、災害に対する備えをしておく、危険を感じたら早めに避難するなど、自らの命を守るための防災行動を起こすことが重要です。

気象警報を発表するような激しい現象は、ひとたび発生すると命に危険が及ぶおそれがあります。そうした現象が予想される数日前から気象庁では「警報級の可能性」や「気象情報」を発表し、その後の危険度の高まりに応じて「注意報」、「警報」、「特別警報」を段階的に発表しています。

日頃からハザードマップで危険箇所をチェック!

大雨や台風のとときには、海岸や増水した川、崖や沢など、危険な場所には近づかないようにしましょう。避難するときも安全なルートを通って移動できるように、ハザードマップ

プを活用して、危険箇所を確認しておきましょう。

ハザードマップには、河川が氾濫した場合に浸水が予想される地域などが示されていますので、あらかじめ知っておくことで、早めの避難行動や、危険を回避して移動することができま

す。なお、ハザードマップを確認することは重要ですが、過信は禁物です。ハザードマップで危険な地域になっていなくても、「うちは大丈夫」、「まだ大丈夫」と甘くみず、早めに避難行動をとりましょう。

雨や風が強くなる前に、家屋の補強などの対策を

雨が降ったり、風が強くなったりする前に、窓や雨戸はしっかりと閉め、必要に応じて補強する、側溝や排水溝は掃除して水はけをよくしておく、風で飛ばされそうなものは飛ばないように固定したり、家の中に格納したりするなど、家の外の備えをしておきましょう。

また、避難が必要になったときに備えて、非常持ち出し品の点検や避難場所の確認なども行っておきましょう。市区町村から避難準備・高

齢者等避難開始の発令があったときは、いつでも避難を開始できるように準備するとともに、危険を感じたら自主的に避難を開始しましょう。特に、高齢者や子どもがいる家庭など避難に時間を要する家庭では早めに避難することが重要です。

避難勧告・避難指示があったときは、安全なルートで避難場所にすぐに避難してください。川の氾濫などの災害は一気に起こるため、避難が遅れると、命にかかわります。天候が荒れてからでは、移動も大変になりますので早い段階から避難するようにしましょう。

なお、既に災害が発生している、暴風や大雨等により避難場所までの移動がかえって命に危険を及ぼしかねない状況では、近隣の堅牢な建物などへ緊急的に移動したり、屋外に出ることさえ危険な場合は自宅の2階以上の部屋等に移動したりするなど、少しでも命の助かる可能性が高い安全確保行動をとるようにしてください。

■問い合わせ先

安全安心課
☎(32)8894

イベント

お知らせ

募集

相

談

就

職

腰痛専門 に特化した施術院



腰痛専門院 円仁(えんにん)
TEL.070-2638-3654



詳しくは「腰痛専門院 円仁」でネット検索!

有料広告募集

多くの方の目に留まる広報しもつけ(毎月1日2万部発行)や市ホームページ(月間平均ユニークアクセス数7.2万件)へ広告を掲載してみませんか?

広告掲載の規格・掲載料などの詳細はホームページをご覧ください。

